ライフケアサポート情報誌

こもれび

KOMOREBI

特集

明治維新150周年を迎えた鹿児島における

済生会鹿児島地域福祉センター 各事業所の取り組み

2018
vol.24
SUMMER

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250　FAX.099-284-8252
http://www.saiseikai-kg.jp

～明治維新150周年にあたって～

鹿児島における
済生会地域福祉センターの歩みと今後の活動

済生会鹿児島地域福祉センター所長
吉田　紀子

残暑お見舞い申し上げます。

暦の上では、立秋を迎えましたが、酷暑の毎日が続いております。皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか?

さて、今年は明治維新150周年にあたり、各地での記念行事やテレビでの「西郷どん」の放映などにより、日本の近代化に貢献した薩摩の偉人たちや薩摩の人々、それを支えた薩摩の自然、食をはじめとした豊富な資源、歴史的文化や教育など鹿児島の魅力が再確認され、県内外の方々にもアピールされております。西郷隆盛や大久保利通など薩摩の偉人たちは当時の日本では身長180cm前後と体格が良く、薩摩の黒豚やさつまいもを中心とする食文化との関係に注目が集まっています。

鹿児島は歴史的に鎖国時代から琉球や中国との交流もあり、それらを通じて中国・東南アジアの文化に触れる機会も多く、文明開化に向けて進取の気性を抱く先人達により、保健医療福祉分野においても先進的取り組みが進められてきています。

保健医療分野では、薩摩藩の西郷隆盛の招聘庇護のもと、明治3年（1870年）英国人のウイリアム・ウィリスが来鹿し、鹿児島の公衆衛生や医学医療についての活動をはじめ、鹿児島医学校を創設し、鹿児島の医療と医学教育に貢献し、多くの医療関係の先駆者を輩出しています。

脚気とビタミンB1の関係を発見する元となった薩摩藩の医師高木兼寛もその一人で、ウイリアム・ウイリスに評価されて鹿児島医学校の教師となり、鹿児島医学校の発展に尽くし、彼らによりのちの鹿児島大学医学部の礎が築かれました。

日本の近代国家としての福祉政策は、明治時代にはじまり、大正時代から昭和にかけてその発展がみられますが、福祉政策につながる起動力となった特筆すべきことは、1911年（明治44年）、明治天皇が生活困窮者を救いなさいとの済生勅語を発せられ、済生会が創設され、活動を開始したことです。

初代総裁に伏見宮貞愛親王を戴き、初代会長に桂太郎（総理大臣）が就任し、組織の運営は内務省が管理、具体的な事業計画は地方自治体に委託することとなりました。

その後済生会は1952年に社会福祉法人として認可され、全国にその活動が広がり、40都道府県で99の医療機関や280の福祉施設・事業所が設置され、約59,000人が働く日本最大の社会福祉法人となりました。

この間済生会はその設立の精神をふまえて、わが国の医療福祉に多大な貢献をしてきました。

国家の責務として、福祉活動が本格的に始まったのは第二次世界大戦後で、こののち福祉関係法が整備され福祉政策として確立していくこととなります。

鹿児島県における済生会の歩みは、昭和5年12月の鹿児島診療所開設にはじまり、昭和6年7月に鹿児島県済生会支部が設立されました。
その後、昭和23年2月に診療所は鹿児島病院へと昇格し、同年11.月には川内診療所が開設され（昭和36年に川内病院へ昇格）ました。

このように医療施設が先行しましたが、社会福祉事業の取り組みが必要との考えで、平成9年8月に鹿児島地域福祉センターが開設され、特別養護老人ホーム高喜苑およびなでしこ訪問看護ステーションを開設し、鹿児島での福祉事業がスタートしました。

その後、平成9年9月にはディサービスセンター高喜苑創設、訪問給食センター高喜苑創設、特別養護老人ホーム高喜苑内に老人短期入所事業を開始、さらに平成10年からホームヘルプステーション高喜苑、訪問入浴センター高喜苑、指定居宅介護支援センターなどを次々と創設・開始し、現在、済生会鹿児島地域福祉センターは、特別養護老人ホームおよび認知症グループホーム等介護施設、ケアハウスおよびサービス付き高齢者向け住宅等の住まい系施設のほかに、通所介護事業所はじめ通所・訪問系の在宅サービス事業所、訪問給食センター等合計12の施設・事業所による福祉・介護・介護予防サービスを提供しています。

さらに、平成30年4月からは、地域包括ケアにより貢献すべく、済生会鹿児島病院と地域福祉センターの機能的一体化が図られ、済生会鹿児島地域包括ケアセンターとして医療介護福祉の切れ目のないサービスを提供する体制が整えられ、入所・入居者の皆様から喜ばれております。

また、平成28年度より開講してきた地域包括ケアボランティア養成講座の修了生の方々による各種ボランティア活動が地域福祉センターの内外で進められており、地域包括ケアの支援拠点化にむけて進化しつつあります。
今後の課題の一つは、対象者を、高齢者のみならず、障がい者や子どもなどすべての年代の生活困窮者などに拡大していくこと、あわせて、要介護の方々へのより良いケアの追求と、今後の国家的課題であるフレイル（虚弱）予防、介護予防に貢献することと考えています。

要介護状態の悪化やフレイル（虚弱）になる要因の一つに低栄養が指摘されています。
そのため、今年度は、利用者の方々のフレイルの有無と状態の把握と、それを予防・改善する食のあり方を研究し、研究結果を今後の済生会地域福祉センターの活動に活かしてまいりたいと考えています。

今後とも皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

当分酷暑が続きます由、皆様方には熱中症などご留意の上、お健やかに秋を迎えられますようご祈念申し上げております。

特 集

明治維新150周年を迎えた鹿児島における

済生会鹿児島地域福祉センター各事業所の取り組み

現在、鹿児島では明治維新150周年を迎え、様々な催し物が開催されたり、NHKの大河ドラマでは「西郷どん」が放映され、一層の盛り上がりを見せております。

そこで昨年、創立20周年を迎えた“済生会鹿児島地域福祉センター”の各事業所が明治維新150周年を迎える鹿児島の地でどのような取り組みを行っているのか事業所の紹介を交えながら、お伝えしたいと思います。

記事を読んで、少しでも興味を持たれた方や日常生活で困りごとがある方など、何でもご相談頂き、お手伝いができたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

特別養護老人ホーム 高喜苑

最近の取り組み

特別養護老人ホーム高喜苑は、平成9年8月に開設し、以降福祉ニーズの変遷とともに福祉センターの中核施設としての役割を果たしてきました。

今年度当苑では、ネット環境を取り入れ情報の収集・伝達をより効果的に活用出来るように新たな取り組みをスタートしました。利用者の生活を「点ではなく線で繋げられる」ように、一つの情報を共有し、チームで支えることの出来るシステムを目指しています。

また、腰痛予防・介護の負担軽減の取組みでは、スライディングシートやボードといった福祉用具を活用した援助も行っております。福祉用具を活用することで、入居者も職員も安全で快適な援助が展開できると考えております。

（スライディングボード&シート）

（お花見）

その他、年間行事の中でお正月には「高喜苑神社」と称し、「鳥居」を作成し、参拝することで入居者の皆様に初詣気分を味わって頂いたり、気候のいい季節にはドライブやお花見、運動会や夏祭りなど入居者もご家族の方々も、職員も一緒になって楽しい時間を共有できるよう日々計画・実行中の毎日です。

2015年6月、厚生労働省が2025年度には介護職員が全国で約38万人不足するという推計を発表しました。今後、介護職不足を補うために、ロボットやAI（エーアイ）、人工知能といったものが開発され活用されるといわれています。これらのものを上手く取り入れつつも、人と人とのぬくもりを感じられるようなケアに取り組んでいきます。

（運動会）

グループホーム武岡5丁目

「その方らしい生活を目指して」

グループホーム（認知症対応型共同生活）とは、認知症を患っている方が共同で生活する場所になります。法的には、家庭的な環境と地域住民との交流の下で入浴、排せつ、食事などの日常生活錠の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにするものと定義されています。

「グループホーム武岡5丁目」では、現在、9名の方が共同で日常生活を送っておられます。共同生活であるので、決まった大まかな日課はあるのですが、ご利用者の生活リズムを尊重して、ゆったりと自由に過ごせる住まいです。少しでも自宅のような生活を続けられるよう、スタッフがそっと見守りさりげなく手助けします。

ここ最近では、認知症の悪化予防のために“回想法”に力を入れております。回想法とは、昔の物や映像にふれることで、昔の事を思い出し、語り合う心理療法の一種です。回想法の時間は、皆様と笑顔で語らい、ゆったりとした時間が流れております。

グループホーム武岡五丁目では、皆様の思いに寄り添いながら、少しでも皆様が自立した生活が送れるように支援させていただきたいと思っております。

グループホーム武岡ハイランド

当事業所は平成15年7月1日に1ユニットの事業所として開始し、平成16年4月1日に増設し2ユニットとなり、現在に至っています。当初は地域福祉センター内に平屋の建物として運営していましたが、平成26年11月、サービス付き高齢者向け住宅「済生会なでしこの杜」の竣工に合わせ、当該建屋の3階に移転して3年が経過しました。

開設から15年が経過しましたが、認知症がある利用者に対するケアの考え方や関わり方を振り返りながら、現在も認知症ケアについて学習を続けています。

そうしたなかで、利用者の処遇においては、年間の研修参加により、学習したことをケアの実践で活かすように意識して関わっており、また、スタッフミーティング等で個々の利用者の状況を把握し、その人らしさが保たれるように身体的、心理的、環境的側面に配慮しながらケアを心掛けております。

また、年間の行事計画においては、季節に応じた行事を企画し、利用者に季節の変化や雰囲気を感じて頂けるように取り組んでいます。また、家族交流会など、ご家族も共に参加して頂ける内容の行事も計画し、利用者と家族が共に過ごすことが出来る機会を設けています。

シルバーフラット武岡台

「武岡台なでしこ倶楽部」が発足!

「シルバーフラット武岡台」は、明治維新150周年を記念して、今年4月に「武岡台なでしこ倶楽部」を発足しました。

入居者様のライフスタイルに合わせて、安全・安心・快適な生活の実現を目的とした同倶楽部は、皆様の趣味やご要望により、従来から月に2回程度開催している「音楽倶楽部」「抹茶倶楽部」「美術倶楽部」。月に1回開催の「映画倶楽部」の4倶楽部及び、講師の都合等により現在休止中の「書道倶楽部」「陶芸倶楽部」の2倶楽部に加えて、月に2回程度開催予定の「カラオケ倶楽部」「麻雀倶楽部」及び、不定期に開催する「園芸倶楽部」「手芸倶楽部」を新たに設置。都合10の倶楽部活動を展開します。

また、毎月開催の誕生会をはじめ、「お花見」や「七夕まつり」「納涼夏祭り」「そうめん流し」「お月見の宴」「クリスマスディナーショー」「吉例!初詣」など四季折々の季節の移ろいを楽しんでいただける恒例の季節行事のほかに、本年度は、維新150周年記念行事として「木下大サーカス鹿児島公演」観覧のほか、「鹿児島歴史散歩・西郷どんツアー」「薩摩美食紀行・焼肉食べ放題ツァー」「白熊発祥の地・セイカ食品工場見学ツァー」などの課外活動を計画しています。
これらの倶楽部活動や課外活動の参加は自由で、入居者様のご意向により選択して参加いただけるほか、ご要望等があればその実現に向けた対応を検討させていただきます。

また、施設では毎年テーマソングを決めて、食事の時間をお知らせする時に流したり、11月に開催の「武岡台校区文化祭」で舞台発表をしています。
今年は鹿児島市が維新150周年記念事業の一環として製作したPR動画に使われている曲「維新!DanciN!鹿児島市!」に決定。この曲は鹿児島実業高校男子新体操部員が西郷(せご)どんに扮して踊るパフォーマンス付きでWEBやTVで放映されて、一躍注目を浴びています。

入居者様の反応は、アップテンポな曲で歌詞の内容も意味不明。当初は戸惑いも少なからずありましたが、2ヶ月経った今では「いしん だぁ~んしん かぁ~ごしましぃ~ぃ ひゅ ひゅ~ぅ」と口ずさみながらエレベーターに乗り込んで5階の食堂に向かわれる姿をお見かけするようになりました。2018年しか使えない期間限定の曲ですがどこまで浸透するか今から楽しみです。

済生会なでしこの杜

済生会 なでしこの杜(サービス付高齢者向け住宅)のこれから

高齢者向けの施設には、特別養護老人ホーム・ケアハウス等さまざまな種類がありますが、「済生会なでしこの杜」は、独立した住居で暮らすことができ、安否確認や生活相談などを受けられる「サ高住」(サービス付き高齢者向け住宅)です。住宅内は、バリアフリー設計や、18平方メートル以上の居室面積が義務付けられており、わたしたちスタッフは、入居者の皆様の暮らしの不安や心配事を取り除けるようなサポートを実施しております。

超高齢社会の現在、高齢者や要介護者の数の増加とともに、「サ高住」の数も増加し続けており、鹿児島市内でも41箇所の「サ高住」があります。(平成30年6月現在)

そのような現状の中、「済生会 なでしこの杜」を皆様に選んでいただくため、また入居中の方には少しでも長く当住宅で生活していただけるために、より質の良いサービスをご提供できるように努めてまいります。

武岡台デイサービスセンター

＼ 人生の先輩方を支えたい ／

武岡台デイサービスセンターの「思い」

私どもは、ご利用者様の意欲向上と自立支援を、優先した様々な活動メニューの提供に心がけています。

活動メニューは、日常生活行為（調理、学び…）、運動機能（マシントレーニング、歩行訓練・・・）、趣味（手芸・陶芸・・・）、社会参加（神社詣り、花見、買い物・・・）、心身の安定（アロマ、フットマッサージ・・・）など、目的別のカテゴリに分かれており、利用者様の自主選択により、提供しております。

パワーリハビリ

専属の機能訓練指導員が、ご利用者様それぞれに合ったプログラムを作成し、受身のリハビリにならないように、ご自身で行うことを重要視し、寝る、座る、立つ、歩くなどの基本的な生活動作の安定を目指すメニューとなっています。

カラオケ

健康な生活には、元気な発声も欠かすことはできません。
口腔体操・発声訓練を取り入れ、専用の部屋を設けています。
みなさん、周りを気にせず、元気に楽しく歌われています。
歌を聴くのが好きな方も、時折、懐かしい歌を口ずさんでいます。

調　理

現在、ご自身で調理できる方は、今後の調理行為の継続のために、調理が出来ない、しなくなった方には、調理する喜びと共同作業による楽しみと、達成感を感じていただいています。
利用者様の料理の知恵を学びつつ、職員も取り組んでいます。

社会参加

私どもは、社会参加と位置づけ、職員の見守りの中で、ご自身による意思決定や行動を重要視し、買い物や地域の子供たちとの交流、公共施設の利用などに取り組んでいます。年を重ねると、活動範囲が狭くなりがちです。ご自身も社会の一員である事を感じてもらい、生活意欲を高めていただきたいと願っています。

（写真：花見活動の一例）

今回は、活動メニューの一部のご紹介となりましたが、他にもたくさんの活動メニューをご用意しています。
私どもは、桜島が眺望できて、開放的な建物となっております。ご希望者には、天然温泉もご用意しています。
是非、ご来所いただき、施設の案内、サービス内容のご説明をさせていただきたいと思います。

ホームヘルプステーション 高喜苑

「ヘルパーさんにお願いしよう。ヘルパーさんにしてもらおう」から

介護保険が始まり19年目に入りました。加齢や何らかの疾病により身体が不自由になり、ご家族や友人、そしてヘルパーに何らかの支援をお願いして暮らしておられる方が多数いらっしゃいます。介護保険が始まった当初は、出来ない事や不自由な事を「してもらおう」の発想が多くありましたが、今では本当の自立支援の目的で、出来ない事が出来るようになる為に、そして、出来ることを増やす為に「ヘルパーさんと一緒にやってみよう!手伝ってもらって!」の考えに変わっています。もちろん、全ての介助が必要な方々もいらっしゃいます。

いつまでも社会の一員として、できれば現役として活躍したい、出来るのであれば、人に頼らずに自分でしたいと多くの方は思っていらっしゃるのではないでしょうか。そこに私たちヘルパーが少しでも関われることは、たいへん嬉しいことだと感じています。

ホームヘルプステーション高喜苑では、皆様の思いに寄り添いながら、少しでも皆様が自立できるよう支援させていただきたいと考えています。

済生会サポートセンターなでしこ

『定期巡回随時対応型訪問介護サービス 24時間365日のサービス』

（サービス付き高齢者向け住宅にお住まいのAさんの一日）

朝6時、目覚めとともに職員がお部屋に伺い更衣やおトイレの介助、洗面等のお手伝いをします。
7時30分　職員と一緒に歩行器につかまり食堂に行きます。朝食後はお部屋で、趣味の塗り絵を楽しみます。　午前中はあっという間に過ぎ昼食です。昼からは、住宅でのリハビリ体操に職員と一緒に行きます。体操が終わると気持ち良い疲労感、お部屋でお茶を飲み少しお昼寝。職員はご本人の体調を確認しながら移動や補水等のお手伝いをします。時には、「少し気分がすぐれない」とコールで職員を呼びます。』

定期巡回随時対応型訪問介護サービスでは、利用者の日々の生活のリズムが落ち着かれるように、必要な援助を計画します。また、緊急的な対応が必要な場面での支援を行なっています。日常的に細やかな支援が必要、また、緊急的な対応が予想される方に、定期的なサービスと随時対応のサービスを行なっています。
済生会サポートセンターなでしこでは、利用者の生活の質に目を向け、精神的にも落ち着いて暮らしていただける事を目標とした支援を提供してまいります。

なでしこ訪問看護ステーション

今も昔も変わらぬ看護

150年前…看護の歴史においては、ナイチンゲールが活動していた時代になります。ナイチンゲールは、初めて「看護とは何か」を、「看護覚書」として残し現代の看護学に大きな功績を残しています。

この書物の中で、看護とは与薬などの医療業務だけではなく、患者の生命力を活かし自然治癒力を高める事だとされています。また、新鮮な空気や太陽の光を採り入れ、静かな環境で清潔を維持し、患者にあった食事を提供することとされています。そして、患者にかける言葉の在り方等も、とても具体的に書かれています。

価値観・ライフスタイルが多様化する今も、この看護理論は私たち看護師が対象とするすべての方々への支援の原点となるものです。私たちなでしこ訪問看護は、地域にお住いの方々が生活の場所でより健康的でより良い状況を目指していかれるようご支援してまいります。そして、お一人お一人の命と向き合い、その方やご家族の考え方を知り、添うもので在りその方が持っている力を充分に活かし、大切な人生を生き抜いていただけるご支援を目指しております。

指定居宅介護支援センター 高喜苑

～居宅の取り組み～

65歳以上の人口の割合が21%を占めている社会を超高齢社会といわれています。日本は平成19年に、この数値に達しており、現在では26%を超している状況だといわれています。

ベビーブーム世代が後期高齢者になる2025年に向けて、地域包括ケアシステムの推進が望まれる中、当事業所も今年度の取り組みとして、「住み慣れた地域で高齢者の生活を支援するための多職種連携をはかる」を掲げました。

当事業所は公営住宅を含む住宅地の中に位置しています。長年住み慣れた人々も年齢を重ね、この地域の高齢化率は平成29年10月時点で地域差はありますが、34～39%を示しています。この環境で、身近な地域の方々に対して、私たちができることは、今よりもさらに地域に根差した取り組みを行うことだと考えています。民生委員の方や町内会の方との関係構築すること。その手段として、私たちが関わりを持つきっかけや窓口を広げて介護保険や福祉サービスなど相談支援体制があることを知っていただくことだと思っています。

知り得ぬことは対応機関の紹介を行い、次へつなげる役割を担っていけるようにしていきたいと思います。
医療連携については、主治医面談をはじめ、多職種との顔の見える関係をモットーに取り組んでいきたいと思います。積み重ねることで信頼される事業所、強いては、地域の力の強化につながればと思います。

訪問入浴センター 高喜苑

「訪問入浴」サービスは、名前の通りご自宅を訪問し、ご自宅での入浴を支援する介護保険サービスです。
私たちは、事業所敷地内から湧き出る温泉水を車両のタンクに溜めご自宅へ出発します。ご自宅に到着後、看護師がご利用者の健康状態を確認する中、介護士とオペレーターは浴槽の準備をします。オペレーターは、ご利用者お一人お一人に合ったお湯の温度を調整します。準備が整うとサービス開始です。スタッフ3名の連携とチームワークがとても大切となります。入浴は、必ずしも好きな方ばかりではありませんが、ゆっくりと浴槽に浸かり、身体が温まり、気持ち良いひと時の憩いの時間が流れます。

このサービスを利用される方は、概ねご自宅の浴槽には入れないなど、介護度の高い方々です。ご本人はもとよりご家族も日頃一生懸命介護をされておられます。私たちは、この憩いの時間をご本人だけでなく、ご家族にも大切な時間となって頂けるよう、お声かけや関わりを持たせていただきたいと考えております。ほんの僅かな時間ですが、私たち職員でお応えできる事がありましたら、何でもご相談ください。

訪問給食センター 高喜苑

訪問給食センター高喜苑では、鹿児島市の委託による心をつなぐ訪問給食、ゆうあい訪問給食とふれあい給食に加え、センター独自の委託外給食の配食を行っております。
「心をつなぐ訪問給食」・・65歳以上で一人暮らしなど、給食が必要と鹿児島市が認定した方。
「ゆうあい訪問給食」・・身体障害者で給食が必要と鹿児島市が認定した方
「ふれあい給食」・・町内会や老人会などで会食を行う団体（10～30名）
「委託外給食」・・市の訪問給食を受ける事が出来ない方、治療食が必要な方を対象に、管理栄養士が立てたバランスの良い食事を保温容器で配達いたします。
配達員がお弁当を渡すだけでなく、“笑顔”と“気配りの目”で訪問いたします。配達先の皆様がお元気にすごしているかを確認するのも、私達の大切な役割と考えています。これからもしっかりと“心”をつなぐ役目を果たしてまいりたいと思います。

認知症ケア
あれこれ

タクティールケアの実践を経て

認知症のある方に対して、様々な専門的アプローチがあります。
当センターでは**タクティールケア**の認定を受けた職員が勤務しており、
認知症ケアの一つの方法として、**タクティールケア**を実践してきました。

タクティールケアとは

ラテン語「Taktilis」の言葉で、「触れる」という意味

背中や手足を
やわらかく包むように
決められた動き、
一定の速度で
触れる

接触受容体を刺激
↓
オキシトシン
ホルモン分泌
↓
安心感、リラックス
心地よさ

触覚が脊髄後角に
信号を伝達
↓
痛覚の受容体の
信号を抑制
↓
痛みの
感覚が抑制

タクティールケアは、オキシトシンホルモンの分泌を促進し、心地よさや安心感、
痛みの軽減等をもたらす療法であり、これまでに様々な効果が検証されています。

タクティールケアに期待される効果と実際の効果

穏やかさ　信頼関係
心地よさ　リラックス
安心感　痛みの改善

◎**リラックス**効果による**入眠作用**
◎**安心感**、**穏やかさ**、**心地よさ**による**心理的状態の変容**
（暫定的感情の向上、否定的感情の減少、行動心理症状の改善）
◎**ゲートコントロール**による慢性的な**腰痛や膝痛の軽減**
◎**信頼関係**が深まり、互いの**存在を認め合える**

タクティールケアの経緯

スウェーデン発祥
▼
未熟児ケアを担当していた
看護師によって始まった
▼
障害児、癌患者への緩和ケア、
認知症患者へ実践
▼
現在も研究が続けられている

KOMOREBI TOPICS こもれびトピックス

「dawnと高喜苑!」

～新時代への種まき～

特別養護老人ホーム 高喜苑

毎年変わらないようで、少しずつ変化しているのかな…と、感じる中、また今年も、この季節がやって来ました。

ー梅雨ー

　恵みの雨、災害になるほどの雨、思ってたより降らない雨、いろんな場面をもたらし、次の季節に移り変わっていくんだなと思います。
充分に注意し、うまく付き合い、前にすすんでいきたいと…
田んぼに植えた苗が、ちゃんと育っていくように…

　そんな中、今年は、苑で実った梅で梅シロップを作ったり、外に生えている"ツワ"を利用者様と一緒に剥いたりしています。そして、きゅうりとなすも植えました!なすはちょっと雨にやられてしまいましたが、きゅうりは無事成長中です。
　来年は、年号も変わります。新時代に向けて、こういった「取り組み=“種まき”」から芽が出ることを信じて、職員一同、踏ん張っています。
　こらからの未来、利用者様も福祉センターのスタッフのみんなにも、たくさんの笑顔が咲きますように…

福祉相談所について

サービス向上委員会

　人口の約3分の1が高齢者となる2025年問題に続き、要介護認定率および中重度率・看取りのニーズ等、急激な増加が見込まれる2040年に向けた課題が浮き彫りとなっています。これまでの縦割りの仕組みから、地域のすべての関係者が『我が事』として生活課題に『丸ごと』対応できる地域共生社会の実現に向け、地域包括ケアシステムを構築していかなければなりません。
　当会は、医療・福祉・介護の資源を最大限に活用するとともに、各種機関と連携し幅広いサービス提供に努めています。
　地域の特性を理解し、地域の皆様お一人おひとりのお困りごとに対し、総合的・一体的に当会としての役割を担い、また、地域づくりに貢献し、地域の皆様といっしょに“安心して暮せるまちづくり”を目指していきたいと思います。その取り組みの1つとして、現在、地域の皆様に向け、毎週火曜13時から17時、グループホーム武岡5丁目にて福祉相談所を設置しております。今後は、地域のシルバーハウジングや薬局に出向き、出前相談所の設置も予定しております。
　皆様のお困りごとの解決の糸口になればと思います。どうぞお気軽にお声かけください。

〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑
〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-284-8253　FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台
〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6870　FAX 099-283-6871

済生会なでしこの杜
〔サービス付き高齢者向け住宅〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-202-0710　FAX 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑
〔指定居宅介護支援事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-4737　FAX 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目16番23号
TEL 099-282-6081　FAX 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-7231　FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター
〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880　FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡
〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880　FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション
〔指定訪問看護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-281-9292　FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑
〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875　FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ
〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875　FAX 099-283-6876

訪問入浴センター 高喜苑
〔指定訪問入浴介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-4731　FAX 099-283-4733

訪問給食センター 高喜苑
〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-283-4730　FAX 099-284-8255

鹿児島県済生会
〔支部〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-210-5460　FAX 099-210-5560

編集後記

明治維新から150年を迎え、鹿児島では西郷隆盛のゆかりの地を始め、関連施設が様々なイベントを開催し、大いに盛り上がっています。歴史好きな人にとって鹿児島は欠かせない場所となっています。済生会も創立100周年を超え、近世から近代への大きな転換期に重要な役割を果たし、歴史的なリンクを感じるこの頃です。

ライフケアサポート情報誌 こもれび KOMOREBI
2018 SUMMER vol.24